

1. 長期成長ビジョン

日本毛織は、国内の毛織物産業が中国に依存しているトップメイキングの技術を現在でも保持している唯一の国内企業であり、糸・毛織物の品質を左右するトップメイキング工程を構築することでグローバル競争力を強化し、事業成長をはかる。また、羊毛トップの国内他社への供給により国内毛織物産業全体の成長に寄与する。

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

- 2024年11月期は、グループ全体で売上高1,154億円、営業利益116億円であるが、2036年度には売上高2,000億円の企業グループを目指している。
- 衣料繊維事業では、紡績～毛織物までの一貫工程に糸・毛織物の品質を左右する工程であるトップメイキング工程を上流に加えることで世界トップレベルの一貫サプライチェーンを構築し、ラグジュアリーブランドが求める「高いクオリティ・トレーサビリティ・人権配慮・環境配慮」に応えることで海外売上の成長を実現する。
- また、当社がトップメイキング工程を持つことで、高品質のトップ・糸・織物を尾州産地に供給することにより、ラグジュアリーブランドからの要求である高品質・サステナビリティ・トレーサビリティを満し、御幸毛織をはじめとした国内の毛織物産業、特に尾州産地の海外競争力の増強に寄与していく。
- 地球環境への配慮が重要となっており、CO2負荷の少ないモノづくりと、ウール衣料の「服から服へ」の取り組みを進め、サーキュラーエコノミーの実現に取り組んでいく。
- これらを進めていくために、顧客開発、省エネ・省人化・自動化等の合理化、人的資本強化への投資を積極的に進めていく。

会社全体の売上成長目標（～2036年度）

- 売上高成長率73%（CAGR5.6%）
- 売上高増加額846億円

会社全体の賃上げ目標

- 11.0%（年平均3.6%）（2024年度～2027年度）
- 16.0%（年平均5.1%）（2027年度～2030年度）

外発的動機

- 地球環境配慮・人権配慮への意識が高まっており、CO2排出量の削減のためにエネルギーや水資源の使用料削減が求められている。
- 衣料繊維事業においては、衣料の50%以上が廃棄されているとの調査結果があり、3R（Reduce, Reuse, Recycle）の取り組みにより、サステナビリティ推進が求められている。
- 国内毛織物産業は、世界レベルでの競争力がない現状であるが、品質の高い羊毛トップを使用することで世界トップレベルの品質である「日本品質」を武器にグローバル市場で戦えるようになる。
- 国内毛織物産業は、過去には多企業により一つの製造全工程を形成することで国際競争力を持っていたが、現在は上流工程のトップメイキングを100%海外に依存しており、競争力を失っている。
- 国内毛織物産業の維持は、当社においても重要課題である。
- 羊毛トップはその殆どを中国および台湾に依存しており、有事の際には毛織物の国内生産ができなくなってしまう。

内発的動機

- 国内衣料市場が拡大しない中で事業拡大を継続していくためには海外での販売拡大が必須である。
- 当社の強みは国内一貫生産体制を持っていることであり、更に糸・毛織物の品質を左右するトップメイキング工程を持つことで世界レベルの品質で競争力を強化することができる。
- 当社は自社でトップメイキングを行ってきたがコストダウンのために海外調達に切り替えた。今後成長する高品質衣料向けに「日本品質」復活を目指す。しかし、トップメイキング工程を構築できる人材ならびに能力が今を逃すと消滅してしまう。
- 当社は毛織物を祖業とし、毛織物産業における第一人者であり、国内の毛織物産業を維持・発展させていく使命がある。

2.補助事業の概要

トップメイキング工程を自社工場内に構築することにより、国内毛織物産業を世界トップクラスの品質に向上させ、海外（欧州アパレル等）への販売を拡大して経済成長に資する。また、年々高まるサプライチェーンのトレーサビリティ保証の要求に対応する

補助事業の
背景・目的

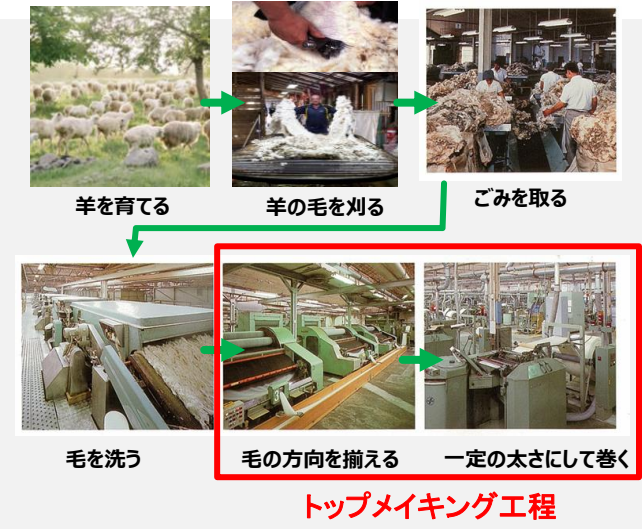
- 日本の毛織物業は原料のほぼすべて中国に依存しており、輸入時に原料の劣化による品質追求への限界、トレーサビリティに限界がある。また、有事の際には原料調達ができなくなるため、自社も含め国内毛織物産業の継続のためにトップメイキング工程を構築。
- コストダウンのために自社生産を海外調達に切り替えたトップメイキング工程を、高品質製造を目的に再構築し、「日本品質」を武器にしたグローバル成長を実現する。

事業費
(補助額)

26億円
(4.8億円)

設備投資の
内容

- 洗ってきれいになった羊毛を、糸にする前の準備として、毛をそろえる工程（トップメイキング工程）を自社工場内に構築する。
- 投資：建屋640百万円、インフラ756百万円、機械1,180百万円
- 現在、日本には全くない梳毛工程を構築することで、
 - ①輸入では輸送時のカビ対策により原料にダメージが発生するが、国内供給によりダメージはなく原料の品質が向上し、後工程である糸製造・織物製造での歩留が向上し生産性が向上する。
 - ②トップメイキング工程構築のノウハウは国内ではニッケにしかなく、非常事態が発生しても国内の毛織物産業の継続が可能のように国内競合他社への販売を行っていく。
 - ③品質が向上することで日本の毛織物の海外での競争力を強化できる。
 - ④中国関係の有事やコロナ禍のような非常時においても、自社で製造工程を保有することで事業を継続できる。
- 2013年まで自社保有のトップメイキング工程を運営・管理していた技術者も高齢化しており、今を逃すとこの技術が消滅してしまう。



目標値

項目	基準年度	事業化報告3年目
労働生産性 (単位：千円/人)	14,945	23,446 (年平均上昇率+16.2%)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位：千円/人)	7,029	8,424 (年平均上昇率+6.2%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位：千円/人)	-	- (年平均上昇率+5.0%)
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	340	330